第　６５号
平成２０年１２月１日発行

寿楽院寺報

〒369-1245 深谷市荒川９８３
高野山真言宗　荒澤山 寿 楽 院
住 職　髙 橋 敬 行
電話　048-584-0302

毎日の仏前のおつとめ

「朝は合掌、昼は汗、夕べは感謝」というのが、日本の仏教徒が励むべき日常生活ではないでしょうか。別の言い方をすれば、朝に発願、昼に実行、夕べに反省と言えるかもしれません。

お仏壇には朝に必ず合掌して一日の平穏無事を祈り、夕に感謝の祈りを捧げるということが、先ず礼拝の基本といえましょう。

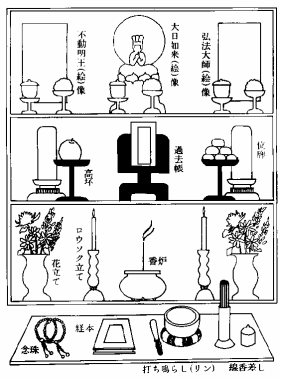
朝のお勤めの場合の一例をあげてみます。

朝起きて洗面した後、仏壇の扉を開け、花瓶の水をとりかえ、仏飯・茶湯をお供えして、姿勢を正し、ご本尊とお位牌を仰ぎ見て、心静かに呼吸を整えて礼拝します。

まず、ロウソクに火を点じ、お線香に火をつけ香炉に立てます。お線香は三宝に帰依しますという意味で三本立てますが、普段は一本だけでも結構です。

つぎに、鈴を鳴らして、見守ってくださる仏様に合掌礼拝し、お経を両手に頂き読経いたします。

時間がなければ、御宝号「南無大師遍照金剛」だけでも心をこめて念じ唱えましょう。



除夜の鐘

去りゆく一年を反省し、新しい年の幸福を願って、年の明ける午前零時に百八つ目の「除夜の鐘」をついて、煩悩を洗い清め、清々しい新年を迎えましょう。

除夜

「除夜」とは、旧年を除く夜　という意味で、十二月三十一日の大晦日の夜をいいます。

大晦日には「年越しそば」を食べ、そして俗に「細く長く、来年も幸せをそばからかきいれる」というもので、引っ越しそばの「末長くよろしく」という挨拶と同じものであるようです。

また、散らばっている金箔を金箔師が蕎麦団子にくっつけて集めたことから、そばで金をかき集めるという縁起となったともいわれています。

毎年大晦日になると、午後十一時四十五分頃から除夜の鐘をついています。毎年百名位の参拝者があり、焚き火で暖をとって、甘酒をふるまっています。

梵鐘は大鐘・釣鐘などともよばれ、上部に龍頭とよばれる龍の頭をかたどった釣り手があり、周囲の下部には、蓮華状の二個の蓮座があり、つるした鐘木でここを叩きます。

縁　起（えんぎ）

「縁起」とは「全ての存在は無数無量といってよい程の因縁によって在り得ている」という、仏教の基本思想を表す重要な用語であるが、日常用いられている仏教語の中で、これほど誤解されて用いられている言葉も珍しい。無数無量の因縁によって私が成り立っているという意味であるから、福も内、鬼も内である。福と鬼が私となっているという意味である。それがいつの間にか、縁起が吉凶の前兆を意味する、自分の都合を願う言葉になっているとすれば、仏教の大切な教えすらも、自分に都合良く理解しようとする人間の本質が見えてくる。

空海の言葉　シリーズ

沈迷（ちんめい）の端（はし）驚かずんば ある可（べ）からず　『性霊集』

●●●いま自分が、極楽と地獄の境の剣が峰に立っていることを驚くがよい

シャボン玉のような泡のことを、英語でバブルといいます。

平成四年は、過去十数年ふくらませ続けてきたバブル経済が、はじけて消えた年でした。

平成三年から四年にかけての普賢岳は、火山活動が活発となり、剣が峰に溶岩ドームが乗っかって、平成三年六月三日には大規模火砕流が発生し、四三名の犠牲者を出す大惨事となりました。

この剣が峰が極楽と地獄を分ける分岐点です。

弘法大師は、「人生は、いつも今があなたの剣が峰だよ」といわれているのです。